

木村 聖子 議員 … 3件の一般質問

待機児童の解消と保育士の確保



町長：処遇の改善も含め、保育士を確保していく

木村 予算上、保育士の正職員数が増えていないが、待機児童はどのように解消していくのか。

また、統合保育所の開所までに必要な保育士を確保するには、今から正職員数を一定程度増やしていくべきでは。

町長 統合保育所では、2歳児以下は、認定こども園の保育所機能部分を含め156名となる。3歳児以上は、保育所の入所予定数と潜在的待機児童数を合わせると135名で、統合保育所と認定こども園の保育所機能部分の定員を合わせ139名となり、現時点では問題ないと考えている。

木村 保育士の待遇があまりよくないというところもあり、待遇のいいところに移ってしまうというところもある。見込み数は理解できるが、まず非常勤職員の待遇を改善しなければ予定どおりの保育士数が集まらず、結果的に待機児童がでることが懸念されるが。

町長 受け入れ可能数を見込んで設置したが、今後、預ける人が増えれば不足する可能性もある。弾力性を持った施設の運営とある程度、枠を考えることも必要。

非常勤職員については、今の任用の基準が5年を過ぎると制約があるので資格者の確保と継続して使える体制を研究し、処遇の改善も含めながら保育士を確保していかねければならない。どのように必要数を確保するか採用方法なども鋭意研究して対応していきたい。

木村 役場庁舎の修繕費が約1400万円計上されたが、老朽化している庁舎にかかる修繕費は、今後どの程度かかる見込みか。

旧東陵中学校に庁舎を移転することで庁舎の建築費用を抑制し、防災拠点としての整備も進んで合理的とも考えるが、見解を伺う。

防災拠点と役場庁舎

町長 平成元年から4年にかけて、外壁や屋上防水の工事をしたのが、20年以上経過しているの

で、今後も日常的に異常の有無を注視し、施設の安全管理に努める。

また、庁舎を現在の場所に改築工事した場合、約20億円台の費用が見込まれる。現在の場所は町民の利便性がよく、なれ親しんでいるので、旧東陵中学校は防災拠点及び町民の利活用施設として整備推進を図り、役場庁舎の移転費用及び立地条件などの点から現在の場所が最良と考える。

木村 公共施設の修繕・改築にあたっては、建物の劣化状態や利用実態、トータルコストなどを、町民に対し情報の可視化をした上で、今の時代に合わせた用途の集約化をするべきでは。



老朽化している役場庁舎

町長 施設整備に当たっては、コストの観点から工夫をしていく。民間との複合的な施設などコストのかからない手法の検討が望ましい。

庁舎についてはすぐに計画に移すということにはならないが、時期が決まった時点で、早目に町民に知らせていきたい。

まちづくり計画と財源確保

木村 新幹線や高速道路などに伴う新しいまちづくり計画を進めるにあたり、自主財源創出の検討をするべきだが、財源の確保策について、見解を伺う。

町長 人口減少が進む中、地方交付税の減額が続く場合、自主財源の確保は、まちづくりを進めていく上で重要な課題である。昨年10月、庁内に新しい財源確保の検討ワーキンググループを立ち上げ、現状と課題を分析しつつ、法定外普通税や法定外目的税など多角的な視点での検討を開始した。単なる財源確保を目的とした検討ではなく、将来のまちづくりを見据え、明確な政策意図を基礎とした新しい財源確保について検討を行いたい。

木村 観光客が多いことを考えると観光税のような法定外目的税が当てはまるのではと思うが、具体的な町長の考えは。

町長 外国人の交流人口が増え、かかる費用も、町にかかっている負担も、公平性の観点からいくと少し出てきていると思う。公平な負担の体制はできないか、検討は十分必要と思っ